



宮城県中学校長会

会 報

令和6年度 宮城県中学校長会 第75回総会開催される

総 会 概 略

5月31日(金)、第75回宮城県中学校長会総会がホテル白萩で開催されました。橋元伸二新会長の下、今年度126名の本会員による、一昨年度から引き続き一堂に会しての開催となりました。御来賓として、副教育長の千葉潤一様、前会長の佐藤亨様をはじめとする9人の方に御臨席を賜り、盛大に開会行事を執り行いました。

橋元会長の開会の挨拶後、教育長代理として副教育長の千葉潤一様から御祝辞を賜りました。その中で千葉副教育長御自身が、現在お考えになっている2つのことについて御紹介いただきました。一つは「学校は、子供たちが主役」であることを、再確認していきましょうというお話でした。子供たちにとって「魅力ある・行きたくなる学校づくり」を進め、子供に居場所があって、自己肯定感・自己存在感・自己有用感をもてる子供たちにしていってほしいと話されました。もう一つは、「子供を変えようとするのではなく、分かろうとすること」というお話でした。教師が子供を分かろうとすれば、しっかり観察し、話も聞くようになる。子供のことが理解できれば、見方が変わり掛ける言葉も変わってくる。そんな教師の姿を見て、子供たちもプラスに変容していくという趣旨のものでした。「教育の不易」なるものを改めて考えさせられ、様々なことが求められている今だからこそ、学校のリーダーが大切にしなければならない心得を伝えていただきました。

次に、長きに渡り本県教育の充実・発展に寄与され、今年3月末に御勇退なされた31人の校長先生方を代表して、前会長の佐藤亨様に感謝状が贈呈されました。佐藤前会長から、「校長職を退

いてから2か月が経った。現在は解放感を味わっているところであるが、それ以上に寂しさを感じている。重荷と感じていた様々な責任が、自分にとって実は生き甲斐だったことをしみじみと感じている。やり甲斐のある、充実した日々であったことを、今、改めて振り返っている」「現職の校長先生方には、充実感とやりがい、そして喜びを感じながら学校経営に邁進していただきたい」など、励ましのメッセージをいただきました。

続いて、今年度入会された30人の校長先生方が一人ずつ紹介された後に、新会員を代表して大谷中学校の熊谷昌祐校長に橋元会長から全日中バッチが授与されました。その後、村田第二中学校の庄司浩昌校長が新会員代表挨拶で「校長職という重責を感じながらも、覚悟をもって職責を果たしていく」といった趣旨のスピーチを行い、総会の前半の部が締めくくられました。

後半の部では、新月中学校宮崎明雄校長と蛇田中学校千葉正人校長が議長を務め、前年度の事業並びに会計決算について協議がなされ、承認を得ました。また、運営規程の改正、令和6年度活動方針及び事業計画、会計予算、そして宣言決議についても原案どおり承認されました。

最後に、山内芳明副会長が閉会の挨拶で「先輩の校長先生方は3、4年もの間、新型コロナウイルス感染症の影響により、思うように学校経営ができないまま勇退されていった。しかし、アフターコロナとなり、私たちは今、自分の思い描く学校経営を進めることができる環境にいる。だからこそ、会員相互の連携を一層強めつつ、理想とする学校経営に邁進していきましょう」と締めくくり、閉会となりました。



あいさつ

宮城県中学校長会
会 長

橋 元 伸 二

例年より遅く発生した台風1号も気になるころですが、暦は衣替えの季節を迎えました。

既に修学旅行や中総体を終えた学校、あるいは中総体を明日に控えている地域もあり、各学校には、悲喜こもごもの生徒たちの表情があふれていることと思います。

本日は、大変お忙しい中、宮城県教育委員会副教育長千葉潤一様、前宮城県中学校長会長佐藤亨様をはじめ、御来賓の皆様、関係機関の皆様、歴代の校長会長の皆様方の御臨席を賜り、令和6年度宮城県中学校長会総会を開催できますこと、会員一同心より感謝申し上げますとともに、大きな喜びと感じているところでございます。

この3月をもちまして御勇退なされました31人の校長先生方におかれましては、長年にわたり、宮城県の教育の発展・向上のために御尽力をいただきましたこと、心より深く感謝申し上げます。皆様方の、今後ますますの御健勝を祈念いたしますとともに、今後とも後に続く我々後輩、そしてこの中学校長会への変わらぬ御支援と御協力を賜りますよう改めてお願いを申し上げます。

また、この度、新たに会員となられた30人の校長先生方、皆様の入会を心から歓迎いたします。4月から皆様は私たちの仲間でございます。初めは分からないことも多いかと思えます。例えば



様々な提出書類。私も近隣の校長先生方に電話をかけていろいろと教を請うたものです。ぜひ遠慮なく何でも聞いていただきたいと思います。

本日の総会は、会員が一堂に会し、同じ立場の者同士、更なるネットワークを構築していただくとともに、75回を数えるこの会の雰囲気を感じていただき、校長としての自覚・覚悟も新たにさせていただく場でもあります。限られた時間ではありますが、今年度の本会の活動等について協議を行い、会の運営や活動方針についての認識を共有してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類に移行してちょうど1年が経過いたしました。3年間のコロナの影響は計り知れないものがありました。この1年、各学校現場では、コロナ禍で制限されたコミュニケーションや人間関係からの学びを再構築する、より実践的な教育活動を推進してきたのではないかと思います。

同時に、コロナを単に負の遺産とすることなく、その経験を生かし、教科の指導内容や行事・会議などを精選、工夫・改善し、働き方改革とリンクさせながらスリム化できるものは無理に戻すことなく、取捨選択しながら学校運営にあたってこられたことと存じます。コロナ禍以来、継続して校長のマネジメント力が問われているのではないでしょう。

「学力向上」「いじめ・不登校」「働き方改革」等々、課題は山積しています。中でも中学校ならではの喫緊の課題は「部活動の地域移行」ではないでしょうか。矢面に立っている中体連担当の方々は産みの苦しみと申しますか、大変な思いをしながら改革を進めていることと拝察いたします。ここにいる校長先生方も想いは様々あるかと思えます。私も土日もなく、朝昼晩と部活動をやってきた一人ですが、やはりこの流れは働き方改革が求められる中で必然だと思います。部活動を必死にやってきた我々だからこそ説得力もあると思いますので、ぜひ建設的に前向きに中体連の方々に支えていきたいものだと考えます。

また、学力の向上は、当然我々教員にとって最も大切な使命の一つであり、宮城県教育委員会の指導の下、様々な施策を受け、それぞれの現場で取り組んでいることと思います。GIGAスクー



ル構想により、タブレットを用いた授業も当たり前になってきています。反面、学力の向上、部活等の技能向上に比して人間性の伸長が伴わず、他者を尊重し、心情を慮ることができない、わがまま、気まま、身勝手、独善的な言動の発信が氾濫していることに教育者として忸怩たる思いを抱き、嘆かわしく感じている校長先生方も多いことと思えます。

松下幸之助はこう言ったといひます。

「ものづくりの前に人づくり」

つい同じように

「学力向上の前に、技能向上の前に…」

と言いたいところですが、

「学力向上・技能向上とともに人づくり」

を合い言葉に教育活動を営みたいものです。改めて「人づくり」の大切さ、その大切な仕事に従事している重みを考えさせられることが多い昨今です。

そして、人づくりは、生徒だけではありません。愛情や情熱、覚悟や責任感…、教科指導も生徒指導もしっかり準備し、生徒としっかり向き合って、

愚直に職責を果たす、そんな職員を育成するのも我々校長の大切な務め、「人づくり」だと思っています。

本日ここで、私たち校長が、この変革の時代の様々な課題に真摯に向き合い、コロナ禍での、多様な教育実践の工夫を生かすことにより、新しい学びへの進化を図る。そして、計画的且つ柔軟にカリキュラムをマネジメントしながら、令和の日本型学

校教育の実現に取り組んでいくことを、全員で確認し合いたいと思います。

今年度は10月9日に、昨年に引き続き全会員が参集し、気仙沼中央公民館に於いて、第42回研究協議会本吉大会が、半日の日程で開催される予定になっております。コロナ禍を経て着実に前へと歩を進めている姿を、全員で確認できる機会でもあります。現在、本吉地区の校長先生方が中心となって準備を進めてくださっています。ぜひ成功裡に終えられますよう御協力・御支援をお願いいたします。

令和6年の県中学校長会のスタートにあたり、古きも大切にしながら変化にも対応する、一体感のある宮城の令和型中学校教育の気概を全会員で共有し、一層の充実・発展に努めてまいりましょう。

結びに、何よりも我々が心身ともに健康でなければ、望ましいリーダーシップは発揮できません。どうぞここにいらっしゃる校長先生方一人一人が健康に留意し、会員が相互に研鑽を深め、その成果を自校の学校経営に生かされることを祈念し、開会の挨拶といたします。





祝 辞

宮城県教育委員会

副教育長

千葉 潤 一 様

総会の開会にあたり、一言お祝いを述べさせていただきます。

本日、県内各地からたくさんの校長先生方がお集まりになり、令和6年度宮城県中学校長会総会が開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

各校長先生方におかれましては、日頃より本県の教育振興のため、先頭に立って御尽力いただいておりますことに、敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、県教育委員会では、教育の振興に関する施策を総合的且つ体系的に推進するため、平成29年3月に、令和8年度を目標年度とする「第2期宮城県教育振興基本計画」を策定し、本県教育の柱である「志教育」の推進をはじめとする様々な施策に取り組んできました。

近年、教育を巡る状況について大きく変化しており、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援の実施、教育DXの推進等の環境変化に対応するため、本計画の中間見直しを行い、計画の期間も2年間延長して令和10年度までの12年間の計画とした改訂版を今年の3月に策定しました。

本計画では、本県教育の「目指す姿」と5つの「計画の目標」の下、「教育DXの推進」「持続可能な学校教育の推進」といった2つの横断的な視点をもちながら施策に取り組むこととしています。校長先生方には、この「第2期宮城県教育振興基本計画（改訂版）」を今一度お読みいただき、学校における教育施策の着実な推進を図っていただければと思います。

さて、本庁各課の具体的な事業等については、総会後の研修会で各課長から説明がありますので、そちらでご確認ください。私からは、今考えていることについて、2点お話しします。

一つは、「学校は、子供たちが主役」ということです。

当たり前のことだと思うのですが、校長先生方に今一度、ご自分の言動や行動を振り返っていただきたいのです。校長になると、学校現場の最高責任者として様々なことをお考えになる中で、いつの間にか「子供たちのため」「子供にとってどうか」という視点が失われることはないでしょうか。

学力向上・授業改善、いじめ・不登校児童生徒への対応、学校環境改善に向けて、細かい手だてや方策は必要ですが、「子供たちが主役」ということを常に考え、子供を愛し、子供を大切に思えば、きっと良い方向に向かうと私は思います。

子供たちにとって「魅力ある・行きたくなる学校づくり」を進め、子供に居場所があって、自己肯定感・自己存在感・自己有用感をもてる子供たちにしていってほしいと思います。

もう一つは、「子供を変えようとするのではなく、分かろうとすること」です。

子供を変えよう、変えようと思うと、無理強いをしたり子供の思いを置き去りにしたりひずみが出てきます。分かろうとすれば、子供をよく見るし子供の話を聞くようになる。子供のことが分かれば、教師の眼差しが変わるし声掛けが変わる。そんな教師の姿を見ている周りの子供たちも、友達の話をよく聞き、対話が生まれます。そうすれば、子供はそこが居場所になる、心を開く、安らぎをもつ、そして次に向かって頑張れる、結果的に子供は変わっていくはずなのです。

私は、学校で、子供たちがつらさや負荷を感じることも必要だと考えています。壁にぶつかっても、先生や友達が見守ってくれば、頑張れるはずです。根性でそれを乗り越えれば、次のやる気が生まれ、新しい自分になれるのです。子供をよく分かろうとすれば、子供たちの未来がきっと開けるはずです。

佐藤靖彦教育長は、「学校現場と悩みや感動を共有すること」をテーマの一つに掲げ、子供たちが安心できる学校づくり、先生方がやりがいをもって、楽しく働ける環境づくりを目指しています。

また日頃から、次のようなことを話しています。「県教育委員会は、市町村と共に汗をかき、現場を第一に考え、行動する『体育会系教育委員会』を目指そう」「教育は明るい未来のためにある。私たちの蒔いた種が花開くのは次の世代だとしても、子供たちの笑顔のために苦労することにロマ

ンを感じて頑張ろう」ということです。

宮城県中学校長会におかれましては、諸先輩方が築いてこられた豊富な経験や知識と、校長先生方同士の連携が、大きな財産となっていることと思います。県、市町村、学校の連携の下、中学校長会の皆様には、これまでも増して子供たちを主役にした教育活動の推進を図るとともに、子供たちが安心して学び続けることができる教育環境の充実に向け、なお一層御尽力くださいますようお願いいたします。

結びになりますが、重責を担う校長先生方自身の健康に留意され、子供たちの健やかな成長のために御尽力されますことをお願い申し上げますとともに、宮城県中学校長会の一層の御発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

本日は、誠にありがとうございます。

新会員代表挨拶

村田町立村田第二中学校
校長 庄 司 浩 昌

本日は御多用の中、宮城県教育委員会副教育長千葉潤一様をはじめ、御来賓の皆様の御臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。また、これまで公私にわたり、御指導・御支援をいただきました諸先生方、並びに日頃からお世話になっている地区・市町村校長会をはじめとする先輩校長先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、私たちは4月に校長としての「第一歩」を踏み出しました。

3月まで教頭として、職員の声が飛び交い、保護者や関係機関などからの電話が鳴り響く職員室で仕事をしておりましたが、今度は校長室という部屋を与えられました。

校長室の静けさの中で一人いる自分に不思議な感覚をもちました。そのとき、以前先輩校長先生からお聞きした「校長室」にまつわる話を思い出しました。それは「なぜ、校長に校長室が与えられているのか」そして「校長室の奥には扉はない」という話です。

無我夢中で仕事をしていた教頭時代でありましたが、校長となり、学校教育目標の具現化に向け、どのような学校運営をしていくべきか、学校が抱

える課題は何か、そしてその解決のためにどのような方策を講じていくかなど、校長室で一人思案することが多々あり、校長室がなぜ自分に与えられているのか、その意味をひしと感じているところでした。

また、校長室で、様々な事案に対する職員からの相談を受けたり、指示や指導を求められたりします。これまではどこか「自分の次には、校長室の扉がある」「扉の先には校長先生がいる」と頼ろうとする自分が正直いました。

しかし、今は私の部屋の奥には扉はありません。校長として、状況を冷静に把握し、適切に判断、そして決断することが求められる立場となり、その責任の重さを痛感するとともに、これまでの勤務地で御指導をいただいた校長先生方の力強い教育信念と、それに基づいた的確な御指示と御指導に改めて尊敬の念を抱いているところであります。

本日は、晴れてこの宮城県中学校長会総会に参加させていただき、栄誉を賜りました。

これから私たちは、教育委員会や関係諸機関の皆様、そして県中学校長会という「広く」「心強い」ネットワークの下で、時に悩み、迷ったときは校長会の「扉」を叩き、先輩校長先生方からも御指導・御助言をいただきながら、今日の学校現場が抱える様々な課題にしっかりと向き合い、解決に向けて努力するとともに、校長としてこれからも日々研鑽を積み、人間性を高め、学校、地域、そして宮城県の子供たちのために、日々精進していきたいと思っております。

結びになりますが、本日御臨席くださいました御来賓の皆様と本会員の先生方の御健勝、そして本会のますますの発展を祈念するとともに、今後も皆様からの変わらぬ御指導を賜りますようお願い申し上げます、新会員代表の挨拶といたします。



宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる持続可能な社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化する中、新しい時代の中学校教育の課題に対応するとともに、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生と全ての子どもたちの可能性を引き出す学びの充実、教育改革の推進を第一義に、これまでの成果の上にとって、当面する教育課題の解決を図り、特色ある学校づくりに努め、県民の付託にこたえる決意である。

ここに、第75回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一 学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。
- 一 引き続き「学校における働き方改革」を推進し、教職員の勤務実態を踏まえ、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期し、Society 5.0時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。
- 一 東日本大震災をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と防災教育・安全教育の充実を努める。

令和6年5月31日

宮城県中学校長会

新 任 抱 負



「ともにつくる」～生徒、保護者、地域
とともに魅力ある学校づくりに努める～

白石市立福岡中学校長

八 島 信

本校は、白石市の北西部に位置し、北は蔵王町、西は小原地区及び七ヶ宿町に続いています。国立南蔵王野営場、白石スキー場、鎌先温泉など雄大で恵まれた自然から私たちの学校は見守られています。平成19年度から平成24年度までの6年間、教諭として本校に勤務しておりました。教員生活最後の学級担任、そして初めて学校経営への参画を意識した教務主任等々、教員としての視野を広げていただいた学校です。そんな非常に思い入れの深い学校に新任校長として赴任できたことは、この上ない喜びの半面、その職責の重さに今なお、押しつぶされそうな思いもあります。何より、当時御指導いただいた歴代の校長先生方の部屋にいる自分の姿に、違和感を覚えずにはられません。

そして、東日本大震災を経験したのも福岡中学校でした。県内多くの学校同様、本校も体育館が避難所となり、我々も初期対応に奔走しました。300人に迫る避難者の数でした。ラジオからは耳を疑うような情報、携帯電話のテレビからは目を覆いたくなるような映像が断片的に流れてきます。寒さと不安の中、まんじりともせず、体育館で夜を明かしました。「これからどうなっていくのだろう」そんな思いを抱きながらも明朝6時30分、ギャラリーから屋根にかけて広くガラス張りになっている体育館のカーテンを開けました。その瞬間、穏やかに朝日がフロアを照らし、一気に温かさを運んできてくれました。「こんな非常事態の中でも、朝日は昨日と変わらず私たちを温かく照らしてくれている」まさに希望の光でした。未だに忘れられない感動を覚えた瞬間でした。

本稿のタイトルは、今年度の学校経営方針です。今、学校現場には様々な問題が山積しています。本校も私が以前勤務していた時期から生徒数はほぼ半数になろうかという勢い입니다。しかしながら、生徒、保護者とともに力を合わせ、地域の方々にお力添えをいただき、あの温かく照らしてくれた朝日のような魅力ある学校となれるよう、微力ながら学校経営に邁進する所存です。今後とも、よろしくお願ひします。

新 任 抱 負



明日も行きたくなる学校に

蔵王町立遠刈田中学校長

堀内 宣久

朝になると「カラン、カラン」と熊鈴の音とともに生徒が登校してきます。様々な野鳥のさえずりとともに、校長室の窓からは、まだ少し雪が残っている蔵王連峰の壮麗な景色を眺めることができます。

私の初任地は白石市立南中学校でした。自然豊かな環境、床がピカピカに磨かれた木造校舎、素直でまっすぐな生徒、アットホームな職員室、温かい保護者、地域と共にある学校。本校は似ている点も多く、どこか懐かしい感じがしています。

自然豊かな素晴らしい環境にある本校ですが、自然が多いこの地域ならではの対応や配慮が必要なこともあります。熊だけでなく猿やカモシカなどの野生動物がしばしば出没するので、爆竹を鳴らしたり、教職員が人通りの多い場所まで一緒に歩いたりします。学校の防災計画には火山災害対応の項目を設けており、噴火を想定した訓練も実施しています。

また、校庭がドクターヘリの臨時離発着場に指定されていたり、常時観測火山である蔵王連峰を監視するカメラが屋上に設置されていたりと、他の学校にはあまりないような、教育活動以外の役割を担っているのも本校の特徴です。

環境が似ているせいか、本校に赴任してから初任当時のことをよく思い出さうになりました。当時、尊敬する先輩に何か相談をする度に「それじゃおもしろくねえべ」と言われました。「どうしたらおもしろくなるか」これが私の学校に対する考えの原点になりました。「本気でやっからおもしろいつつうか、成長すっからおもしろいつつうか、そこが大事なんでば」そんな温かい励ましの言葉が耳に残っています。

これから校長として「おもしろい学校にする」とはどんなことを考え、実践していきます。おぼろげながら「おもしろい学校にする」とは、生徒にとっても教職員にとっても、本気で取り組み、成長できる学校にすることであり「明日も行きたくなる学校にする」ことだと思えます。それが校長としての私の使命です。

これまで教師としての自分を導き支えていただいた方々への感謝は、「明日も行きたくなる学校にする」という使命に向けて、誠心誠意努力することでお示ししていく所存です。



「ひとつづくり」へ向けて

大河原町立金ヶ瀬中学校長

山田 賢一

「山脈つづく東北の はるけき世々の昔よりひらけそめにし金ヶ瀬の 里におかれし学びの舎」と始まる校歌のように、大河原町立金ヶ瀬中学校は、白石川の流れと蔵王連峰と一体となった美しい田園景観が広がるところにあります。金ヶ瀬地域は、宿場町の面影をとどめる昔馴染みのコミュニティと住宅地開発により商業施設等も増えて新たな住民の割合も増えていますが、地域の連帯意識は強く、学校教育への関心も高い協力的な地域です。そのような環境にある金ヶ瀬中学校は、全校生徒99人の小規模校で、生徒たちは落ち着いて学校生活を送っています。

私はこれまで高校教育のみに携わってきたので、予想もしていなかった初めての義務教育の世界、中学校勤務です。新任校長として職責を全うできるのだろうかと不安を抱きながら赴任しましたが、隣の職員室から聞こえてくる声を聞き、生徒にきちんと向き合っって熱心に指導してくれる教職員がそろっている学校であると直感し、とても恵まれた学校で教育活動に関わることができると確信しました。

教育は「ひとつづくり」と言われますが、町や地域の中でそれを感じる部分もあり、人としての品格や他者への思いやり、社会貢献の視点を育てていくことの大切さを改めて感じています。生徒一人一人が尊重され、互いに支え合う風土を醸成し、生徒が安心して学び、成長できる環境を整えながら、「自主・敬愛・健康」の校訓の下、自ら考え、行動する力を育みたいと考えています。また、生徒たち一人一人の将来を十分に見据えて、社会人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育み、変化が激しい予測困難な時代にあってもより良い人生の在り方を考えてたくましく生き抜く力の育成を目指したいと思えます。そして、地域社会とのつながりや連携を図りながら、私のこれまでの高校教育での経験が何か生かせるところがないかと模索しつつ、教職員一丸となって日々の教育活動に取り組んでいきたいと思っています。

 新 任 抱 負



風光明媚な松島で学び続ける

松島町立松島中学校長

小 山 順 子

本校は、日本三景の一つ松島町にある唯一の中学校です。昭和22年に開校した歴史と伝統ある中学校で、多くの町民にとって、共通の思い出をもつ学校となっています。

生徒たちは、町内3つの小学校から入学し、徒歩、自転車、JR、バスなど様々な手段で通学してきます。元気な挨拶と先輩、後輩、同級生の仲の良さ、学習はもちろん部活動や生徒会活動、学校行事へ向けた取組など、何事にも全力を尽くそうとする好ましい校風が根付いており、校内には生徒たちのさわやかな挨拶や明るい声がいつも響いています。教職員も、朝から晩まで各教室や各活動場所で常に生徒とともに行動し、指導にあたっています。地域の方々にも様々な形で御協力いただいております。本校に対する関心の高さや期待を実感しているところです。

松島町では、全ての小・中学校において「松島町指導力向上プログラム」を踏まえた普通の授業実践を大事にしています。児童生徒の学力向上という「他者改善」以上に、教師自身が「自己改善」を積極的に行い、指導力向上を図ることが、児童生徒の学力向上につながるという考えからです。

本校でも、教育目標「心豊かで、自ら学び、たくましく生きぬく生徒の育成」の具現化に向け、まずは日々の教職員の生徒への挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話、及び授業や行事等を通じた個と集団への働き掛けを大切に、「さわやかなあいさつと笑顔あふれる学校」「生徒一人一人の確かな学びと成長を保障する学校」「地域や保護者とともに歩む、信頼される学校」を目指しているところです。

新任校長、初めての松島町勤務を楽しみながら、自ら学び続けることで「自己改善」に励み、教職員の共通理解の下、家庭・地域と連携を深めながら教育活動を展開していく所存です。風光明媚なここ松島の皆さんとともに…。



「安心・安全な学校づくり」を目指して

多賀城市立高崎中学校長

酒 井 智 紀

本校は、多賀城小学校、多賀城八幡小学校、城南小学校の3小学区からなり、多くの史跡に囲まれています。今年度は、多賀城碑の国宝への指定、多賀城創建1300年と歴史的なイベントが予定されています。

4月の体育祭に始まり、修学旅行、中総体と行事に追われ、あっという間に過ぎた2か月は、常に後ろに校長先生が控えていた教頭時代とは違い、校長としての責任の重さをひしひしと感じ、改めて「安心・安全な学校づくり」の大切さをかみしめる毎日でした。しかし、そのような忙しい毎日でも、生徒の明るさやひたむきさを間近で感じられること、生徒のためを思い、授業づくりや生徒指導、保護者対応などに手間を掛け、丁寧に対応する先生方の姿を見られることは、この上ない幸せであり、毎日の活力となっています。

今、子供たちを取り巻く社会状況が大きく変化しています。東日本大震災、新型コロナウイルス感染症への対応など、学校現場もこれまでの経験が通用しない状況への対応や、これからの社会でたくましく生き抜く生徒の育成が求められています。そのような変革期の学校現場だからこそ、生徒も保護者も働く先生方も安心して過ごせる、安全な学校づくりを目指していきたいと強く思っています。

まだまだ経験不足の私だけでは、とても難しい課題ですが、多賀城市は市内の校長先生方へ相談したり、助言をいただいたりできる環境が整っており、とても心強く感じています。また、今年度スタートしたコミュニティ・スクール組織を中心とした地域の力もとても頼りがいのある存在です。生きる土台となる健康・体力、自ら学ぶ力そして豊かな人間性を身に付けた生徒を育てることができるよう、校長として、生徒に直接関わる先生方の適切な労働環境の確保と授業力・指導力の向上に力を入れて学校経営を行い、みんなが幸せを感じることでできる「安心・安全な学校づくり」を目指してまいります。

新 任 抱 負



果たすべきこと

大崎市立松山中学校長

岡 明 子

3月末、引継ぎのため、初めて松山中学校を訪れたときのことです。

校長室に案内いただき、真っ先に私の目に飛び込んで来たのは、校長室南側に面している広々とした庭園でした。

春の始めであったので、庭園のたくさんの樹木はピンク色の花が咲き始めていました。高木や低木など、様々な種類の木々は、どれもきれいに整えられており、あまりの美しさにびっくりしてしまいました。学校に対する地域の方々の強い思いと、積み重ねられてきた学校の歴史の深さに気付かされると同時に、松山のことを何も知らないまま赴任しようとしている自分に気付き、はっとしました。

校長先生からの引継ぎを受けながら、「このままではだめだ」と自分自身を反省するとともに、赴任することへの覚悟を決めました。

あれから約2か月、まだまだ分からないことばかりですが、まずは「教職員とたくさん話すことから」と、校長室のドアを全開にし、毎日、職員室と事務室を行ったり来たりしながら教職員との会話や雑談を重ねています。そこから、私がこの学校で果たすべきことが見えてくるはずだと思いつつながら。

今日も庭園の木々は、陽の光に輝いています。庭園の真ん中には、特別支援学級の生徒たちが育てているジャガイモ畑や大根畑もあり、毎日、水やりに来る生徒たちとの会話も、私にとってとても大切な時間となっています。

松山中学校に集う99人の素直で明るく元気な生徒たちと、その生徒たちを、毎日、温かく支える27人の教職員。みんなが安心して生活できる学校であるように、そして、地域に住む誰もが大切にしているこの場所をしっかりと守り抜き、歴史と伝統をつないでいくことができるように、自分の果たすべきことに精一杯、力を尽くしていきたいと思つています。

ふるさとの山は
ありがたきかな

栗原市立栗駒中学校長

加 藤 純 一

「朝朝夕日に照り映えて 清らかな嶺 栗駒の」本校の校歌の一節です。この4月の人事異動により栗原市立栗駒中学校の校長として赴任しました。前職の時には、遠く仙台から眺めていた栗駒山でしたが、今は間近で日々様々な姿を見ることができます。

本校は、平成25年4月1日に鶯沢中学校と栗駒中学校が再編され現在の栗駒中学校となりました。当時の生徒数は、約350人だったのに対し、現在は221人となり、この10年間で100人以上減少したことになります。

初めて本校に赴任したときの生徒たちの元気な挨拶、始業式や各種行事における話を聞く態度の素晴らしさ、体育祭や中総体に向けた壮行式における応援の声の大きさなどなど「やはり中学校はいいなあ」と思う場面を、この2か月間で味わわせてもらいました。このように生徒たちは、素直で元気な生徒たちで、これまでの栗駒中学校における先生方の支援・指導と保護者の協力の賜であると感じております。

もちろん、学校としての課題もあります。生徒たちの様子や保護者・地域の声から実態を押さえ、教職員で知恵を出し合い、一人一人の生徒たちに学校での学びをしっかりと提供できるようにしていきたいと思つています。

校長は、様々な場面で判断を迫られ、改めて自分の無力さを痛感する日々であります。しかし、現在与えていただいている立場で何ができるのかを考え、常に学び続ける姿勢と学校経営を楽しむ気持ちをもち続け頑張っていきます。

今日もふるさとの山、栗駒山が見てくれていません。

最後に石川啄木の一首

「ふるさとの山に向かひて言うことなし

ふるさとの山は ありがたきかな」

新 任 抱 負



新任校長として

石巻市立万石浦中学校長
佐藤 伸一郎

今年の4月に石巻市立万石浦中学校に赴任し、教頭をはじめとする職員、そして151人の元気な生徒に迎えられました。

万石浦中学校は平成6年に開校し、今年度で31年目を迎えます。豊かな海と眺めの良い山々に囲まれ、風光明媚で素敵な環境に囲まれた学校です。校歌の3番に「歴史とロマンの海道に連なる山は緑なり英知と勇気を身につけて大志を抱き世界知る」という一節があります。これは、かの支倉常長公が学区である月浦からサンファンバウティスタ号にて出港した際のこと、これからの世の中を託す若者を育成する我々の気概を大いにくすぐられる歌詞であると感じました。

職員は若い先生方が多いのですが、生徒と共に学ぶ姿勢があり、教育への情熱にあふれる姿勢によって、日々の教育活動をこれまで順調に展開できています。修学旅行や運動会も無事に開催でき、ホッとしています。ただし、情熱あふれるゆえに様々な準備に勤務時間を過ぎ、だいぶ遅くまで仕事をしている先生も少なくありません。校長として、熱心な姿勢そのままに、いかに効率的によりよい教育を展開できるか、あらゆる可能性を考え実践に移していきたいと考えています。

地域の方々、学校に対して非常に協力的です。PTA役員をはじめとしてコミュニティ・スクールも活発に熟議を行っています。生徒をはじめ保護者、地域の皆様、職員が「万石浦中学校で本当によかった」と心から誇りをもって言える魅力ある学校づくりを目指していきたいと思えます。

コロナ禍の影響で、様々な行事や学校文化が変化してきました。中には縮小や削減されたものもあります。その時期に新しく取り入れられた効率性と、コロナ禍以前の良さを合わせた新しいスタンダードを創りつつ、地域の特性を生かした学校経営に取り組んでいきたいと思えます。

赴任して以来、はや2か月が過ぎようとしています。これまで御指導いただいた校長先生方をはじめ、諸先生方や関係機関の皆様に対する感謝の気持ちを忘れず、新任校長として研鑽を積んでいきたいと思えます。



凡事徹底

石巻市立牡鹿中学校長
北條 志伸

通勤時間約50分。最初は「遠い」というのが率直な感想でしたが、太平洋を一望できる絶景やシカ、タヌキなどと遭遇するため、毎日わくわくしながら運転しています。それと同時に、「わき見運転注意」と自分に言い聞かせている毎日です。

本校は平成22年に鮎川中、大原中、寄磯中が統合し、今年度で開校15年目を迎えました。牡鹿半島の小高い場所に立地し、太平洋を眺望でき、東に金華山、南に網地島が位置しています。今年度は全校生徒20人の小規模校ですが、諸活動に積極的に取り組む元気の良い20人です。地域や保護者の皆さんは温かく協力的で、人や自然に恵まれた環境の中、学校に寄せられる期待にしっかり応えたいという思いを強くしているところです。

地域環境を生かした本校の特徴的な活動として、海水浴場（網地白浜・十八成浜）の清掃活動や漁業体験（谷川浜漁港）があります。網地島では清掃活動のほか、侍ソーランを披露し、地域貢献や地域の方との触れ合いから、牡鹿地区のよさを再認識することができています。5月に行われた運動会でも全校生徒で侍ソーランを披露し、大漁旗をモチーフした法被姿で全身を大きく使い、指先や視線にまで気持ちの入った踊りで会場を魅了しました。「生徒は侍ソーランが大好きでソーランを舞うことを誇りに思っている」ということがひしひしと伝わってきました。会場からのアンコールにより、卒業生も交えてもう一度披露するほどの盛り上がりを見せました。このように地域を愛し、地域から愛されている牡中生を職員一同しっかりと支え、丁寧に根気強く育てていかなければならないと思った一幕でした。

私は「凡事徹底」という言葉を用い、生徒に話す機会がありました。物事の当たり前とも言える基本的な部分を疎かにせず、丁寧にやり遂げることの連続が成功や達成につながるということを生徒に伝えつつ、自分自身も肝に銘じて過ごしたいと思えます。そして、未来を切り拓く子供たちのために、校長として誠心誠意努力してまいります。

 新 任 抱 負



自慢の生徒 自慢の教職員とともに

登米市立石越中学校長

谷 田 敏 幸

4月の赴任日に、部活動で登校していた生徒たちから歓迎のセレモニーを受け、私を含めた8人の教職員を歓迎の言葉と大きな拍手で温かく迎えてくれました。そのとき、自分が石越中学校の校長になったという意識を強く感じた瞬間でした。

3月末に新任管理職等研修会があり、主催した市の教育長先生からの励ましの言葉を常に念頭に入れています。1. 謙虚であること 2. 一つ一つの課題を把握し見通しをもって仕事をする

3. 人を活かすこと 4. 人のつながりを大切にすること 5. 健康第一で職務を全う の5つ。

赴任して約2か月が過ぎようとしています。毎日が新鮮で、これまで過ごしてきた教諭や教頭時代とは違う重責を感じている日々です。毎朝、生徒が登校する通学路に立っていると、「おはようございます」と明るく元気な声を掛けられると心が和み、1日のスタートが清々しく感じます。

石越中学校は、登米市の西北部丘陵地に位置し、昭和22年に創立して以来、登米市内でも歴史と伝統のある中学校で、4月に第78回目の入学式を挙行し、新入生27人を加えた全校生徒89人でスタートしました。学校教育目標を『自主 協力 健康』とし、その具現化に向けて《感動がある学校》～「分かった」「できた」を一人一人、皆で感じることができる学校～を目指す学校像として掲げ、生徒、保護者、教職員そして地域の方々と連携して学校運営を行っています。

登米市は、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を設置し、学校、家庭、地域の課題解決のために地域と一体になった協働教育を推進しています。昨年度は、石越地区市民体育祭に生徒が補助役員及び選手として参加して、地域の方々と一緒に体育祭を盛り上げました。

今後も自慢の生徒、自慢の教職員とともに、明るく、楽しく、元気のよい職員室を心掛け、生徒や保護者、地域の方々から信頼される石越中学校を築いていけるよう全力を尽くす所存です。



自分にできることを精一杯

登米市立津山中学校長

森 美 紀 子

私はこの3月まで、宮城県志津川自然の家に社会教育主事として勤務してきました。学校現場では得ることのできない貴重な体験は、自分自身を大いに成長させてくれ、かけがえのない経験になりましたが、いざ自分が校長となって学校現場に戻ってきてみると、久しぶりの学校に戸惑い、目の前のことをこなすことで精一杯で、自分の力のなさを痛感するばかりの毎日です。

本校は、昭和50年4月、柳津中学校と横山中学校の2校が統合して開校し、今年度で49年目を迎えます。学校は四方を緑に囲まれた小高い山の中腹にあり、生徒は「登校坂」と呼ばれる学校までの長い桜並木の坂道を歩いて上ってきます。全校生徒は64人。「あいさつ宮城No.1」を自負し、途中ですれ違う人や車には、立ち止まって挨拶をすることが当たり前の学校です。それを目の当たりにし、大いに感激しましたが、同時に「こんないい学校を自分の代で崩さないようにしなければ」とも考え、校長としての重責に身が引き締まる思いでした。

津山中学校では、防災学習に力を入れ、学んだこと、考えたことを地域と共有したり、地域と一緒に避難訓練や避難所開設訓練を行ったりしています。また、職場体験、地元の矢羽根杉による工芸品づくり、伝承芸能の打囃子、火伏せの獅子舞なども地域の方を講師として活動しており、地域から愛され、地域とともにある学校だということ強く感じています。この先、更に生徒数が減少していくことが予想されますが、その中であっても、津山中学校が地域の希望であるように、私自身も社会教育主事としての経験を生かし、地域との関わりを大切にしながら、地域とともに学校運営に力を注いでいきたいと考えています。

校長としてはまだまだ未熟で、今は思いだけが空回りしている状態です。しかし、伝統を守り、津山中学校のために、自分は何をすべきか、何ができるのかを常に考え、そのときそのとき、生徒のために、地域のために、自分にできることを精一杯行っていきたいと思っています。

新任抱負



地域との結び付きを大切に!

気仙沼市立大谷中学校長
熊谷昌祐

本校は、気仙沼市の南部にある旧本吉町に位置する中学校です。この地域は、大谷海岸をはじめとして、海の幸が豊富で漁業が盛んに行われてきました。また、山の自然にも恵まれた地域です。過去には、地域の方々からの体育館へのピアノや各教室へのTVの寄贈など、地域の中でとても大切にされてきている学校です。

また、すぐ近くに幼稚園・小学校・公民館があり、大谷地区の中核となっている地域にあります。そのため、本校だけでなく、地域の子供たちを見守り育ていこうとする意識がとても高い地域であると感じています。

地域の方々の子供たちへの思いは、学校そばの交差点での毎朝の見守り活動や総合的な学習の時間のゲストティーチャー、幼稚園・小学校・中学校・公民館共同の避難訓練への協力等、とても温かく、深いものを感じさせられています。

今年度、小学校と共同で、これまでも学校と連携を図ってきていただいた方々を委員とする学校運営協議会を立ち上げました。東日本大震災からの大谷地区の復興に現在も携わっている方もおり、最初の会議では学校を中心として、どのような内容について検討をし、意見を出していったらよいのかなど、学校運営協議会をこれから有用な協議会にしていこうとする熱意あふれる会議となりました。

今後も地域との結び付きを大切にするとともにより強いものにしていきながら、「おらほの学校」を地域の方々と更に創り上げていきたいと考えています。

より学校を知っていただき、更に理解をしていただくためにも、学校の様子をホームページなどのメディアを通して発信できるように努めていきたいと考えています。そして、教職員みんなと地域の方々と協力しながら子供たちを育ていけるよう、より強固で魅力のある「チーム大谷」を築いていけるように努めてまいります。

編集後記

この度の会報150号は、5月末の総会に関わる内容のものと、新任の校長先生から寄せられた原稿を基に作成しました。御多用のところを執筆に御協力いただきました関係の皆様へ、心から感謝申し上げます。

さて長期に渡ったコロナ禍の中で、様々な取組を持続可能なものとするために、オンラインによる会議や会合がなされるようになりました。アフターコロナとなった今でも、当時の経験を生かし、効率化や負担軽減などを図るものとして、必要に応じオンラインによる事業等が引き続き行われています。

時代と共に様々な価値観が変わっていく中で、今年度宮城県中学校長会は「総会の開催は全会員による参集型で」と定め、多くの御来賓の御臨席の下、総会を盛会裏に終えることができました。会報の作成にあたり原稿を読み返しますと、当日の会場の雰囲気や空気感、新任の校長先生方が緊張の中にも高揚感をもって会に臨まれていた様子が鮮明に思い出されます。会員の皆様にも、この会報を手にとっていただき、当時の様子を感じ取っていただければ幸いです。

終わりになりますが、本会の活動は、県内各地区中学校長会相互の連絡提携を図り、中学校教育の全領域に渡る当面する課題の検討や研究協議、関係機関への提言や情報発信を行い、本県教育の振興に寄与することを目的としています。会員相互の力を結集し、創造的且つ豊かな教育活動を推進していく宮城県中学校長会の活動の様子を、今後も情報部はホームページや紀要などを用いて情報発信してまいります。引き続き御協力と御支援を賜りますようお願いいたします。(情報部長 佐々木)

令和6年度 宮城県中学校長会事務局

〒985-0851

多賀城市南宮字八幡170

多賀城市立第二中学校内

TEL: 022-309-1351

FAX: 022-309-1352

E-mail: miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

事務局員: 佐々木 奈美子

宮城県中学校長会ホームページ

<http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/>